

6月9日

修院長コロンバ

Columbanus (Iona)

(521.12.7~597.6.9)

～アイルランドの守護聖人～



「聖コロンバ」

John R Skelton (1906)

人名辞典ではアイオナ(アイオナ)のコロンバーヌス(大コロンバーヌス)と表記されている彼は、アイルランドだけでなくスコットランドにおいても守護聖人とされている。

コロンバは、イングランドや北ヨーロッパが異教徒であるゲルマン人によって席卷されていた時代、アイルランド北西部のカウンティ・ドニゴールのガータンに生まれる。彼は修道士としての訓練を受け、のちに修院長となるのだが、アイルランドにいる時代にもデリ、ドゥロウ、ケルスや他の地に修道院を建てていく。

しかし信仰上の争いから迫害を受け、コロンバは563年、12人の同志とともにアイルランドを離れ、スコットランド南西のアイオナに渡る。そこで彼は34年の間、周辺の地域に福音を伝える活動をおこなう。

その時にピクト(Picts)人の王ブルード(Brude)を回心させ、キリスト教信仰をもたせたことで、ピクト人の使徒とも呼ばれるようになった。

そして、彼の建てた教会や修道院は、ケルト的キリスト教の基礎を担うこととなる。特にアイオナに建てられた大修道院は、スコットランドにおけるキリスト教文化の中心的役割をもつものとなっていった。

さて、アイオナの修道院長アダムナンによると、彼は背が高く、たくましい体をしていらしい。そして、キリスト教の奇跡や預言を、アイオナにもともとあった伝統と結びつけながら、巧みに説明をしていたという。また、学者・詩人・政治家としてもその才能を発揮させた。3つのラテン語の詩が残されている。また彼の弟子には、ヨーロッパ各地にケルト的修道院制度を伝えた聖コロンバヌス(540~615)がいる。

教会でよく歌われる聖歌に「Amazing grace」(アメイジンググレイス:Tune NameはNew Britain)があるが、この曲は作曲者不詳で、アイルランドまたはスコットランドの民謡となっている。しかし日本聖公会聖歌集ではColumbian Harmonyからの曲であると書いてある。コロンバとの関連は薄いと思われるが、興味深い。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした修院長コロンバは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン